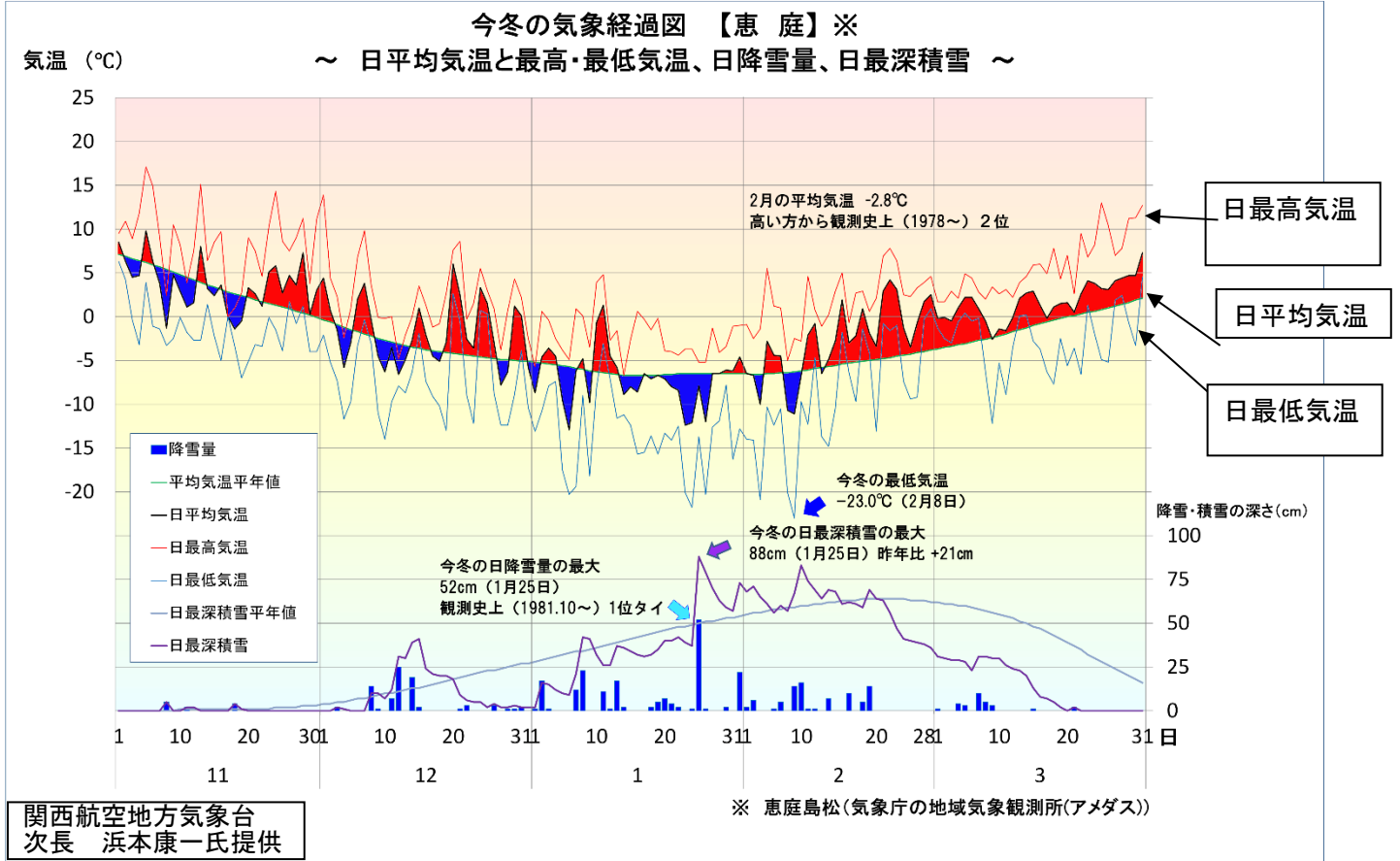


季節のまとめ

【今年の冬を振り返って】（令和7年11月～令和8年3月）

防災士 清水為一



【概況】

今年の冬は、1月中旬から2月初めまで気温の低い日が多かったが、期間を通して気温が高く、また、降雪量の合計は平年に比べ7割程度と比較的少なかった。しかし、1月25日には日降雪量が52センチ”と観測開始以来第1位のタイ記録となった。

月別経過

11月

上旬は、低気圧や低気圧が通過後の一時的な西高東低の冬型の気圧配置による寒気の影響で曇りや雨の日が多かった。1日には急速に発達した低気圧の影響で日降水量が81ミリと11月として最も多くなった。中旬は、数日の周期で低気圧が発達しながら北海道の北を通過し曇りや雨の日が多かった。下旬は、西高東低の冬型の気圧配置が長続きせず比較的晴れた日が多かった。

- * 日降水量 81,0mm (1日) 11月として 多い方の第1位
- * 10分間降水量 3,0mm (28日) " " 第6位
- * 月降水量 147,5mm " " 第5位

12月

上旬は冬型の気圧配置が長続きせず高気圧に覆われて晴れた日もあった。中旬は北日本を通過した

低気圧の影響で曇りや雪・雨となった日が多かった。14日から15日にかけて急速に発達した低気圧の影響で大雪となり15日の最深積雪は41センチとなった。下旬になっても日本付近を通過した低気圧の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。

* 日最大10分間降水量	5,0mm (1日)	12月として	多い方の第3位
* 月降水量	101,5mm	"	" 第7位
* 日最高気温	13,9度 (1日)	"	高い方の第2位
* 日最低気温	2,6度 (20日)	"	高い方の第10位
* 月平均気温	-1,8度	"	高い方の第6位

1月」

上旬は周期的に低気圧や気圧の谷が通過しその後冬型の気圧配置が強まった。中旬は冬型の気圧配置は長続きせず低気圧が頻繁に通過した影響で曇りや雪の日が多かった。下旬には再び冬型の気圧配置となりやすく、21日から25日頃と29日から30日は特に強まった。特に25日には日降雪量が52センチを記録し、1981年の「統計開始以降最も多い記録となった。

* 日降水量	27,5mm (25日)	1月の多い方の	第1位
* 日最大10分間降水量	3,0mm (13日)	"	" 第1位
* 日最大1時間降水量	7,5mm (13日)	"	" 第4位
* 月降水量	111,5mm	"	多い方の 第1位
* 日降雪量	52cm (25日)	"	" 第1位
* 月最深積雪	88cm (25日)	"	" 第4位 (昨年比21cm)

2月

上旬から中旬にかけて北海道付近を周期的に低気圧が通過したため、低気圧に吹き込む暖かい空気により気温はかなり高くなった。下旬は高気圧と低気圧が交互に通過したため冬型の気圧配置となりにくく引き続き暖かい空気が流れ込んだ。

* 日最高気温	7,8度 (22日)	2月として高い方の	第6位
* 月最低気温	0,9度 (28日)	"	" 第7位
* 日最大10分間降水量	1,5mm (28日)	"	多い方の第2位
* 日最大1時間降水量	5,5mm (28日)	"	" 第5位

3月」

上旬は北海道付近を低気圧が通過しやすかったため曇りや雨の日が多かった。中旬は、オホーツク海方面に進んだ低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため気温は高く、晴れた日が多かった。下旬は高気圧と低気圧が交互に通過したが比較的晴れた日が多かった。

* 月降水量	35,0mm	3月として少ない方の	第10位
* 日最低気温	4,5度 (31日)	"	高い方の第2位
* 月平均気温	1,8度	"	高い方の第3位

まとめ

今冬の特徴として、1月下旬から2月初めにかけて一時的に西高東低の冬型の気圧配置が強まって大雪になった時期があるものの比較的穏やかな冬と言えます。また、冬型の気圧配置に伴う寒気の影響も一時的であったことから期間を通して暖冬と言えます。昨年・一作年の冬

も「暖冬」と言われましたが、3年連続で「暖冬」となりました。

* 今後の天候の予想 *

今年、南米ペルー沖の海水温が上昇する「エルニーニョ」よりさらに強力な「スーパーエルニーニョ」が発生する可能性がある」と国内外の気象機関や専門家が指摘しています。

前回発生した2023年には北海道を含む北日本で「数十年に一度」とされる記録的な猛暑を観測しました。既に本州では”” 季節外れの暖かさ”” が現れており相次いで発生が見込まれる背景には地球温暖化の影響も指摘されており、専門家は「発生した場合、同程度の暑さとなる可能性が高い」と警戒を呼びかけています。2023年、恵庭では8月23日から26日迄の4日間、日最低気温が24度から26度と熱帯夜が続き大変寝苦しい夜を過ごしたことが思いだされます。また、8月の月平均気温が24,9度と観測開始来第1位の記録となりました。

昨年などで猛暑をもたらす要因の一つだった偏西風の北への蛇行も続いており「北海道上空も含めて日本付近は今夏、複数の強い高気圧に覆われる可能性がある」と指摘されています。

他にも北海道周辺の海水温が高い状況が続いており、本来取れるはずの北方系の魚に代わって南方系の魚が豊漁になるなど海水温が急速に下がる要素はありません。

これらのことから、「冷夏」は死語となり「猛暑・酷暑」が普通の気候になっていく恐れがあり私たちの暮らしも、それ対処していく必要があります。